



第3回全道会員交流会集合写真

目次

- 1 つながりが、専門職の価値を高める
ー全道会員交流会を終えてー 2～4
- 2 新人社会福祉士の紹介 5
- 3 ベテラン社会福祉士の視点 6～7
- 4 地区支部からのお知らせ 8～9
- 5 Break time ～三択クイズ～ 10
数字で見る社会福祉士会 10

ー 会員の動向（9月30日現在）ー

- 総会員数 1,871名
- 入会率 12.63%
- 新入会員数（転入含） 103名（累計）
- 退会員数（転出含） 10名（累計）

発行人 出町 勇人
発行所 事務局
編集 企画総務委員会
(委員長 佐々木 祐也)

ー 会員の皆様へー

LINE公式アカウント、
公式Facebook未登録の方は
ぜひご登録ください。



LINE公式アカウント



公式Facebook（フェイスブック）
(<https://www.facebook.com/hokkaidocsw/>)



〒060-0002

札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2.7 4階

TEL.011-213-1313 FAX 011-213-1314

メールアドレス info@hokkaido-csw.or.jp



ユニバーサルデザイン(UD)の考え方にに基づき、
より多くの人に見やすく読みまちがえにくい
デザインの文字を採用しています。

【つながりが、専門職の価値を高める —全道会員交流会を終えて—】

十勝地区支部 支部長 渡辺 洋一郎

「人と人がつながることの大切さを、あらためて感じた」。今回の全道会員交流会を終えて、私が最も強く感じたことです。

2026年度の北海道社会福祉士会全道会員交流会が、十勝・帯広の地で開催されました。第1部の講演とピザづくりには72名、第2部の懇親会には61名、第3部には26名、延長戦の第4部も20名の参加があり、全道各地から多くの仲間が集いました。十勝地区支部長として、この場をともに創り上げてくださった皆さまに、心から感謝申し上げます。

「道東のつどい」から広がったつながり

この全道会員交流会には、少し特別な歩みがあります。

もともとは、釧根地区支部、オホーツク地区支部、十勝地区支部の3地区支部が中心となって開催していた「道東のつどい」がその始まりでした。このつながりを道東だけにとどめず、全道の仲間へ広げていこう」という思いから、2024年に「全道会員交流会」として新たなスタートを切りました。私自身、そのときは企画総務委員会担当理事として、立ち上げに関わった一人でしたので、その時に一緒に担当した、澤田副会長、道北の綱渕さん、オホーツクの佐々木さんとの再会もまた感慨深いものがありました。

ともにつくるのが、私たちの財産に

今回の交流会では、株式会社ますやパンの杉山社長に「地産地消地人のパンづくり」として講演をいただき、その後、参加者の皆さんとピザづくりを体験しました。

杉山社長の十勝を愛する地域づくりの講演も素晴らしく、そのあとのピザづくりでは、4人1組で一緒に手を動かし、同じものをつくり、食事をしながら語り合う。十勝晴れのもと、こうした時間も、今回の交流会の大きな意味だったのではないかと思います。

もちろん、当日の企画や運営も大切ですが、今回特に強く感じたのは、そこに至る



までの「プロセス」の大切さでした。企画総務委員会の皆さん、十勝地区支部の役員の皆さん、そして準備に関わってくださった多くの方々と、何度も話し合い、考え、準備を重ねました。

誰か一人がつくるのではなく、それぞれが持っている経験やアイデアを出し合い、一つの場をつくっていく。その過程で、互いのことを知り、信頼が生まれ、新たなつながりが生まれていきます。振り返ってみると、今回の交流会で得られた一番の財産は、一緒につくり上げた仲間とのつながりだったのではないかと思います。

AIの時代だからこそ、人と人のつながりを

今回、杉山社長から「価値を高める」というお話を伺いました。

パンをつくり、販売するということだけではなく、そこにどのような価値を生み出し、地域の中でどのような存在になっていくのか。

そのお話を聞きながら、私は社会福祉士という専門職にも通じるものがあると感じました。私たち社会福祉士も、専門的な知識や技術を持っていますが、それだけで私たちの専門職としての価値が社会に伝わるわけではありません。目の前の一人ひとりの暮らしに向き合い、本人の思いや願いを受け止め、地域の課題を見つけ、さまざまな人や機関をつないでいく。そうした実践の積み重ねの中で、「社会福祉士だからこそできること」を社会に示していくことが必要なのだと思います。

いま、オンラインでの会議や交流が当たり前になり、生成AIをはじめとする新しい技術も急速に発展しています。もちろん、こうした技術は私たちの活動を支える大切なツールです。一方で、どれだけ技術が進歩しても、社会福祉士の専門性の根底にあるものは、やはり「人と人との関係」の中にあるのではないのでしょうか。

相手の表情を見ながら話を聴く。言葉にならない思いを感じ取る。一緒に悩み、考える。時には、すぐに答えが見つからないことも含めて、その人とともに歩んでいく。

そして、私たち専門職自身も、仲間と語り合い、刺激を受け、支え合いながら成長していく。それは、社会福祉士という仕事の大きな魅力であり、AIやオンラインだけでは置き



換えることのできない、私たちの専門性の一つなのだと思います。

つながりを、専門職の価値へ

今回の全道会員交流会も、単に「楽しい交流会」で終わるものではありません。

この場で生まれたつながりが、これからの実践につながる。仲間との出会いが、新たな学びや気づきにつながる。一人ひとりの社会福祉士が自らの専門性を磨き、その価値を高めていく。その積み重ねが、社会福祉士という専門職への社会的な認知につながり、専門職としての地位向上にもつながっていくのだと思います。

最後になりましたが、今回の開催にあたり、遠く十勝まで足を運んでくださった皆さま、企画・運営に力を尽くしてくださった企画総務委員会、各地区支部の皆さま、そして十勝地区支部の皆さまに、あらためて心より感謝申し上げます。

これからも、つながることから生まれる力を大切にしながら、北海道の社会福祉士の輪を、さらに広げていきたいと思っています。

さあ、来年またお会いしましょう！！



【新人社会福祉士の紹介】①

氏名：塩杉 里佳（53歳）
所属：道南地区支部
所属先：社会福祉法人
函館厚生院
函館市地域包括
支援センターたかおか



私は、令和8年2月から函館市地域包括支援センターに併設された自立相談支援機関で、相談支援員兼就労支援員として働いております。自立相談支援機関は、平成27年に施行された「生活困窮者自立支援制度」に基づく、世代や属性を問わない方たちの相談窓口です。函館市では、1か所に3名合計10か所、合計3人の相談支援員が在籍しています。相談に来られる対象者の方々は、「今日、明日食べる物が無い」「水道、ガス、電気などのライフラインが止まってしまった」などの緊急を要する経済的困窮から、「ひきこもり」「多重債務」「相談するところがどこにもない」などの、つながりの貧困に関する相談等さまざまです。多くは制度や使えるサービスもないなど、制度の狭間に置かれていたり、多種多様で複雑な課題をご家族全員で抱えていたりすることもあります。このような対象者の方と向き合っていくにあたり、今はまだまだ知識も経験も未熟であり、一人ひとりと向き合うのに精いっぱい状態です。専門職としての知識や技術、倫理観を身に付け、成長していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

【新人社会福祉士の紹介】②

氏名：辻本 瑠璃衣
所属：道央地区支部
社会福祉法人札幌育児園
児童養護施設札幌育児園
児童指導員



現在、児童養護施設で児童指導員として勤務しています。子どもたちの日々の生活支援をはじめ、学校や関係機関との連携など、子どもたちが安心して生活し、自分らしく成長していけるよう支援しています。子どもたちの関りの中では、思うようにいかないことや悩むこともあります。その分子供たちの成長や笑顔に立ち会えたときには大きなやりがいを感じます。

大学では社会福祉を学び、社会福祉士の資格を取得しました。大学3年生の頃までは、社会福祉士になりたいという明確な目標があったわけではなく、「資格を取るのであれば取っておこう」くらいの気持ちで資格取得を考えていました。しかし、児童領域の実習で児童養護施設について詳しく知り、実際に子どもたちと関わる中で、子どもと関わることの楽しさや魅力を感じました。実習を終える頃には児童養護施設で働きたいと思うようになり、現在の仕事に繋がっています。

実際に現場で働く中で、社会福祉士が様々な人や機関を繋ぎ、子どもたちや家庭を支える役割を担っていることを実感しています。まだまだ勉強不足なことも多いため、これからも日々の経験を大切にしながら、自己研鑽に励んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【ベテラン社会福祉士の視点】①

氏名：清野 光彦

所属：十勝地区支部



私が社会福祉士になったのは、1993年なので、かれこれ33年が過ぎた。時代の流れとともに私たち社会福祉士に求められるものが変化してきたために、私の実践時における視点もまた時代の移ろいとともに変化している。残念ながら、ここではその詳細についてたどる字数の余裕がないので、現時点の視点について、ストレートに書いてみることにする。

一つは「権利擁護に対する視点」である。

私が社会福祉を学んだ頃には想像もできなかったが、現在はあらゆるものの個別化や差別化が進み、その一つひとつに「権利」を意識して取り組まなくてはならなくなっている。

「権利」を意識するあまり、少々ぎすぎすしている観は否めないが、この傾向は、今後益々強く、そして厳しく求められるだろう。

私は、この「権利」を「擁護」する視点を最優先に考えなければならないと思っている。

次に「実践には常にミクロからメゾ・マクロまでを意識して臨む視点をもつこと」である。個別のケースを突き詰めていくと、どこかで必ず現行の制度や政策といった既

成の枠組みに行く手を阻まれる。この手詰まりな状態を既存のシステムだけで対応するのか、新たな仕組みを創造しようと試みるのかではアクションの起こし方が大きく異なる。確かに新人にはなかなか高いハードルではあるが、ミクロ実践とメゾ・マクロ実践は連動しているということを我々はもっと意識すべきであると思っている。

三つ目は「社会福祉士とは何をする人なのか」という視点で常に自分自身を見つめなおすこと」この視点は、資格を取得した33年前とほぼ変わらないが、行動（実践）の基礎となる部分の『価値と倫理』が時代の要請や年齢を重ねたことによる考え方の変化についていけているのか否かを繰り返し検証・確認し続けることの必要性を意味している。

最後に、視点とは別に、最近の関心事として、一つ挙げさせていただきたい。それは、実践のアプローチ方法として『社会構成主義とナラティブアプローチ』に興味をそそられていることである。理由は、自分自身が他者に介入してほしい時に、このアプローチ方法を使って欲しいと思えるからだ。もし、この分野で造形を深めておられる方がいらっしゃればご教示いただきたいし、様々な角度から議論してみたいと思っているので是非ご連絡をいただきたい。

【ベテラン社会福祉士の視点】②

氏名：久保田 教之（56歳）

所属：道北地区支部

社会福祉法人

北海道社会福祉協議会

上川地区事務所



福祉の仕事を目指し、大学入学時に最初に読んだ本が「夜と霧」(ヴィクトール・E・フランクル著)。戦争と強制収容所の悲惨さを通じて人間の尊厳に言及しており、福祉も含めて人が生きることの深い意味を伝えていました。後年、資格を取得し歳と経験を重ねてから、その内容の重みがじわりと効いてくるのに驚きを覚えています。

卒業後、老人ホームでの相談業務に始まり、通所介護、介護支援専門員など高齢者ケアの世界で24年を過ごしました。嚥下が困難な方には懸命な食事介助で命をつなぐ、臨終には遠方の家族に代わり手を握り看取るなど、人の生死について深く触れたのもこの仕事です。

入職当時、「社会福祉士を受験して何の意味が？」と逡巡していましたが、介護保険制度創設の情報が入りはじめると、社会福祉士と介護支援専門員の専門性がリンクしている、どちらも重要な資格だと感じました。平成10年ころ、社会福祉士と介護支援専門員受験のミッションを短期間で達成したことは、今に至るまでの自信となっています。慎重な思考や行動も大切ですが、悩むより行動、走りながら考える、そしてチャレンジ。ブレークスルーには、臆病で

億劫な自分を忘れて進むことも必要であることを知るきっかけになりました。

資格取得後に「介護事業経営に腐心する自分」への疑問が大きくなったころ、社会福祉士の専門性を感じたのが成年後見人の受任です。多額の未払いを抱えた方には弁護士と債務整理をおこない安定した生活を取り戻せたこと、また身寄りがない方には地域包括支援センターの社会福祉士との連携により、災害で行方不明だった親族を探すことができ来道して協力いただけたことなど、専門職間で柔軟に連携し支援につなげる強みを知り、その時に培った視点と手法は社協間の協力調整や小地域での多職種間連携などで、今も応用して生かしています。

現在の仕事は高齢者ケアから社会福祉協議会の分野に移りましたが、20代から今まで福祉の仕事を続けることができたのも、社会福祉士として各分野で活躍されている多くの方々が、学び・交流の輪に仲間として招き入れて支えてくださったからだと感じています。

最後に、38年前に読んだ「夜と霧」の記述、「意味についての問いを180度方向転換する」からの学びとして心に刻んでおきたいことがあります。それは、躓いたときに与えてくれることを期待するのではなく、「その出来事や体験とどう向き合うか」を考え「その問いに答える責任がある」専門職として、これからの様々な対話や事象にいていねいに臨んでいきたい、ということです。

【各地区支部からのお知らせ】

【道央地区支部】

道央地区支部の、会員同士の交流と情報共有を目的とした10月以降の研修会、学習会の予定です。

①10月3日（実施済み）

権利擁護セミナー「新たな成年後見制度の概要と社会福祉が担う役割」

講師：札幌国際大学教授

鈴木 憲治 氏

＊セミナー参加者55名、ランチ会参加者15名

②10月31日

35歳以下の若手の会員懇談会

③11月3日

高齢者施設で働く会員懇談会

④11月5日

児童福祉分野で働く会員懇談会

⑤11月7日

「現代の子どもの特徴といじめ、不登校の対応」

講師：札幌山の手高等学校

グランドフェロー 石垣 則昭 氏
(元文教大学教授)

会場、内容等はホームページをご確認ください。

【道南地区支部】

道南地区支部は、月末に控えた「司法分野における社会福祉士の関与の在り方を考える学習会～基礎編～」事件の物語から生活の物語へー私たちはなぜ関与するのかー

の準備に取り組んでいます。

できれば直接参加で、難しければオンライン参加で、もっと可能であれば懇親会も…と、一人でも多くの方々と学び、語り合うことが出来れば嬉しく思います。

それらにむけて地区支部では、イメージキャラクター「ほっとん」を作成、そして、地区支部通信もリニューアル意思統一を図っています。地区支部総出で皆さんとお会いできるのを楽しみにしております。

【道北地区支部】

○2026年5月30日

春季セミナー・道北地区支部全体会／48名
「『自分らしく生きる』を支える～女性・障がい者の自立支援とは～」

石原 ゆり奈 氏（NPO法人Support for Woman's Happiness 代表）

○2026年7月14日

司法福祉委員会／15名

「犯罪事件が起きたら それぞれの支援者はどう考えるか」

佐藤 洋美 氏（司法分野との連携特別委員会・地区支部司法福祉委員）

○2026年7月24日

高齢者虐待対応SW研修会／50名

山崎 加代子 氏（道虐待対応専門職チーム）・高橋 通江 氏（地区支部長）

○2026年9月4日

実習生・指導者が一緒に学ぶ社会福祉士としての「職業倫理」／実習生12名、指導者10名

今井 敦 氏（道副会長・地区支部監事）

【オホーツク地区支部】

7月30日に北見市民会館でシンガーソングライターであり、ご自身がトランスジェンダーでもある敦賀ひろき氏を講師に迎えてお話を伺いました。生まれた時から違和感を抱えたまま学生時代を送りなんとかバランスをとって生活を送っていた公務員時代を経て、世の中の風潮が変わってきてカミングアウト、そして国のガイドラインに沿った性適合手術を受けたとのことでした。当事者でなければ分からない精神的苦痛、肉体的苦痛は、私たちの想像を絶するものでした。多様性の考えを改めて思う機会となったなど、皆さんから様々な感想が寄せられました。

【日胆地区支部】

日胆地区支部では、10月24日に「社会福祉士のための金融リテラシー」をテーマに、金融トラブルや詐欺などの予防策について学ぶ権利擁護セミナーを開催しました。日々の支援の中でも、本人の生活や権利を守るために金融に関する知識が求められる場面が増えており、参加者同士で意見交換を行いながら学びを深める機会となりました。今後は、11月に苫小牧市、12月に室蘭市で虐待対応研修を予定しているほか、外国人労働者をテーマとした多職種連携の研修も企画しています。下半期も皆様の実践に活かせる研修会を企画していきたいと思います。

【十勝地区支部】

十勝地区支部では、会員同士のつながりを大切にしながら、さまざまな活動に取り組んでいます。8月8日の「社会福祉セミナー」には50名が参加し、学びを深める機会となりました。隔月開催の「ソーシャルワークカフェ」も好評で、毎回10名以上が参加。日頃の実践や悩みを気軽に語り合う場となっています。9月26日には全道交流集会在十勝・帯広で開催され、地区支部の会員がそれぞれの強みを発揮し、協力して運営しました。これからも「つながり」を力に、地区支部での社会福祉士の資質向上と価値発信に向けて取り組んで参ります。

【釧根地区支部】

釧根地区支部では、6月13日(土)に第19回全体会を開催し、令和7年度事業報告決算、令和8年度事業計画予算について報告し、ともに承認いただきました。その後は社会福祉セミナーを行い、「独立型社会福祉士という“もう一つの働き方”」と題して独立型社会福祉士としての活動から組織との違いや働き方を学び、多様な支援やキャリア形成について考えることができました。また、懇親会にも多くの会員の参加があり、仲間同士の交流を深めました。

今後も研修の企画がなされていますので、多くの会員のご参加をお待ちしております。

【Break time ～三択クイズ～】

Q. 今年の全道会員交流会、第1部で盛り上がった〇〇づくり体験。

〇〇に入る言葉は？

- ①おにぎり ②ピザ ③そば

正解者の中から抽選で3名様に、3千円相当の景品をプレゼントします。

回答及び当選者は次号に掲載します。

【応募方法】

応募フォームまたはメール・FAX・郵送でご応募ください。

応募フォームはこちら⇒<https://forms.gle/dK3fDYkZwvmiig8T9>



<メール・FAX・郵送の場合>

件名を「懸賞について」とし、①氏名 ②会員番号 ③答え ④本誌の感想などを記載しご応募ください。

応募締切：2026年11月30日(月) ※消印有効

応募先：北海道社会福祉士会事務局（表紙に記載）



【数字でみる北海道社会福祉士会（認定社会福祉士数編）】

27名

北海道社会福祉士会の会員のうち、認定社会福祉士登録者は現在27名（2026年4月1日付）となっています。

全国では、578名（2026年4月1日付）の認定社会福祉士がいます。

認定社会福祉士に関する詳しい情報は、

<https://www.jacsw.or.jp/ninteikikou/>（認定社会福祉士認証・認定機構）よりご確認ください。